

(別紙4) 平成 22 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 0475101028 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 東北福祉会 | | |
| 事業所名 | せんだんの里 国見ヶ丘3丁目グループホーム | | |
| 所在地 | 宮城県仙台市青葉区国見ヶ丘3丁目146-2 | | |
| 自己評価作成日 | 平成22年11月18日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 仙台市社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 宮城県仙台市青葉区五橋2丁目12番2号 | | |
| 訪問調査日 | 平成22年12月8日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

青葉区国見ヶ丘の住宅街に位置し、小規模デイサービスとの合築型として設置しています。開設から10年目に入り、地域にも少しずつですが溶け込んできています。毎月の町内一斉清掃に出たり、町内会の夏祭りを見に出かけたり、地域のボランティア団体の食事に参加させてもらったりしています。また、当事業所としてフリーマーケットや介護教室などを開き地域との交流を図っています。デイサービスが併設されているということで、入居者の方々も地域の方との触れ合いで生活に広がりが出ています。デイサービスが併設されたことで入居者の方も地域から通ってこられる方々との触れ合いが持て、生活に広がりがあります。開設から10年ということでは長く入居されている方は心身共に障害が重くなってきていますが、本人らしさを大切にケアしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは小規模デイサービスセンターとの合築型で住宅街に隣接している。近辺には同法人が運営する特別養護老人ホーム等複数の福祉施設が点在していることもあり、地域住民からの理解も比較的得やすい立地環境にあると言える。その立地環境を活かして、地域住民を対象としたフリーマーケットや介護教室をホームの敷地内で開催したり、地域住民主催の行事に入居者と職員が参加するなど、地域交流が活発かつ継続的に行われている。また、家族とは来訪時や電話での連絡を密にし、連携を図り共に支え合う関係づくりに取り組んでいる。利用者と施設側の双方の気づきを大切にした家庭的なサービス提供に意を用い、処遇の質的向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ミーティングの際に理念の確認や地域とのつながりを行事の実施を含めて確認し「北乃家」の家訓として実践できるように努めている。 | 法人理念の中で地域生活の継続を謳い、ホーム独自の理念もホールに掲示している。理念は職員ミーティングやカンファレンス等で振り返り、日々のケアに活かせるように話し合われている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内会への加入、一斉清掃に毎月参加している。町内会回覧板は入居者と一緒に届けたり、地域ボランティア団体の食事会に参加している。また事業所主催のフリーマーケットなどで交流を図っている。 | 町内会に加入し入居者、職員が共に町内の一斉清掃に参加する等の交流がある。また、地元ボランティア団体主催の食事会に招かれたり、慰問を受け入れたりしている。ホーム主催フリーマーケットで、地域住民に出店いただく企画も好評である。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域住民の方々へ向けての「介護教室」を定期的に開催している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 会議の際に各GHでのとりくみや外部評価の報告を行い、そこでの意見を「介護教室」へ活かせるようにしている。 | 会議は、家族や地域の関係者を招いて年6回開催し、ホームの活動状況報告や運営に関する意見交換を行っている。また、会議と合わせて勉強会を取り入れる等の工夫もなされている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 実地指導の改善案など具体的にどうしたらよいかアドバイスをもらっている。 | 管理者は行政担当窓口と、直接相談したり、法人本部を通じたやり取りを必要に応じて行っている。また、管理者自らが、市が主催する認知症に関するワーキンググループに参加するなど、行政担当者との顔の見える関係の構築に努めている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 事業所内で「身体拘束しないケア委員会」を設置しており、随時学習会を開催して、ミーティング時に確認している。 | 法人設置のケア委員会による学習会等を通して、職員は身体拘束のないケアに取り組んでいる。入居者の外出傾向は職員間の話し合いで共有し、日中は玄関に鍵を掛けずに、職員の見守りや外出付添いで対応している。近隣住民には散歩や買い物等での関わりで顔見知りになるよう心掛け、有事の関係づくりに努めている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 「高齢者虐待防止」の勉強会を開催しており、ミーティング時に確認をおこなっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 積極的にはおこなっていないが、外部研修に参加するなどしている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 時間を十分設け、ご家族の意向や疑問点などないか確認し、納得されるまでお話を伺っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関先に意見箱を置いている。月1回の電話連絡や面会の際に要望を伺うようにしている。 | 家族の意向は来所時や介護計画提示の際に確認するようにしている。職員は気軽に相談できる雰囲気作りに努めており、出された意見については法人本部や職員に示して運営に反映させている。外部相談機関の連絡先は玄関に掲示している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月2回のミーティングの際に職員と意見交換をし、反映できるようにしている。 | 月1～2回の職員ミーティングに際して、職員の意見を聞く機会を設けている。また、風通しの良い職場環境を目指し、年1回、管理者との個人面談の中で意見を聴取している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年1回の昇格試験や面談などを行っている。勤務体制についても意見を募り、改善に活かしている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内外を含め、勤務年数と担当に合わせ研修参加をすすめている。また、事業所内GHの交換研修などもおこない、新しい気付きを促している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 宮城県グループホーム協議会に加入しており、事業所間での交換研修や情報交換を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前に事前に訪問し、ご本人・ご家族・関係機関から情報を集め安心して生活していただける努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前の訪問時の聞き取りや入居間もない場合には、電話連絡を入れたり場合によっては来ていただいたりして生活の様子を面会時に伝えるなどしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご家族・ご本人・関係機関からの情報を基に管理者・介護支援専門員・リーダーを中心にカンファレンスを開催し、対応の検討を行っている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 入居者のできることを把握し、家事作業や買い物など役割をもっていただき、共にこなうようにしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | プラン作成時に要望を聞いたり、受診時には付き添っていただいたり、食事会に参加していただくなどをしており、家族と共に支える関係に努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 友人や近隣の方々との関係は継続出来ていないが、ご自宅に宿泊したり、親戚の方々や友人の面会などいつでも受け入れをおこなっている。 | 家族からの聞き取りや入居者との日常的な関わりを通して、馴染みの関係の把握に努めている。友人の来訪希望は大いに歓迎している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 日々の生活状況から関係を把握し、食事時の席なども検討したり、職員が仲立ちして入居者同士が支えあえるように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | ご家族の意向を確認し、地域密着推進会議の委員を継続してお願いして、食事会、町内会の祭事などに参加していただいている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | バックグラウンドの把握や日常の会話・行動などから、意向の把握に努め、プランに載せてカンファレンスにて検討している。 | 日常の会話や行動などを記録に残して、職員会議に情報を活かしている。言葉にするのが難しい入居者については、特に普段の様子と異なる点に気を配ったり、その方に合った声掛けを通して思いや意向の把握に努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご本人・家族・関係機関から情報を収集して、把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 心身の状態に変化があった場合などは再アセスメントをして把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご家族の意向を確認し、月1回のモニタリングカンファレンスの際に検討している。変化があれば、すぐに見直しをおこなうようにしている。 | 介護計画は入居者それぞれの状況に合わせた内容で作成し、3ヶ月毎に見直しを行い、関係者の同意を得ている。毎月、モニタリングを実施し、家族に対して文書で入居者の様子を報告しており、合わせて意向確認も行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の生活の様子をケース記録に残し、全員が確認し情報を共有している。また、記録をもとにモニタリングし、プランに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご家族の要望・ご本人の状況に合わせ迅速に対応出来る情報の共有・申し送りの徹底に努めている。また、併設しているデイサービスも活用している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域ボランティア団体の食事会・町内会の夏祭り・町内一斉清掃に参加するなどして、楽しみを持っていただくと共に地域の一員として暮らしていただくよう支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 主治医の定期的訪問と随時の報告・訪問・相談で密に連携をとっている。 | ホームの協力医に限らず、入居者・家族が希望するかかりつけ医の受診が可能である。家族が受診対応する際は様子を伝えるほか、家族と共に職員が受診に同行することもある。受診結果は個人記録として職員間で共有・確認を行っている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 契約の訪問看護STの看護師の定期的訪問と随時の訪問で適切な看護が受けられるように支援している。定期及び必要時には、本人の状態を報告・連絡する体制をとっている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院中に主治医・担当看護師の方々からの情報を収集し退院に向けての準備・話し合いの場を設け対応している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に重度化・終末についての方針を説明するとともに、ご本人の状態に応じてケアプラン提示時にご家族の意向を確認していくようにしている。また、主治医・看護師との情報共有をに努めている。 | 重度化及び看取りについては入居時に説明し、意思確認書を取り交わして関係者間で同意が得られている。この一年間での対応例はないが、入居者の状態変化によっては話し合いを行い、段階的な合意が得られるよう方針を定めている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 職員採用時の研修や事故発生時のマニュアルを作成している。また、救急救命の講習にも参加している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の防災訓練を地域の方にも参加していただき実施している。また、不定期ではあるが、職員全員が身につけられるように随時おこなっている。 | マニュアルを作成し、夜間想定を含む防災訓練を年2回実施している。避難通路の確保や設備点検も年2回行われており、スプリンクラーは一部設置済みで他も設置の準備がすすめられている。設備点検時には法人の担当者が立ち会っているがホーム管理者は立ち会っていない。 | 火災発生時には消火設備等を使用した迅速な対応が求められるため、機器点検時にはホームの管理者も立ち会う体制の確立が求められる。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 目上の方という気持ちを忘れずに誇りやプライバシーを損ねることのないように対応している。 | 入居者一人ひとりを尊重した適切な声掛けや態度で対応しており、居室の出入りは本人の了解を得てから行っている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | お話を十分傾聴し、本人が思いや希望を出せるように対応しており、ご本人の意見を大切にして生活していただいている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 決して無理される事のないようにその人のペースと体調に合わせて声がけ・介助している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 自分で衣類などを選ぶことができる方にはご自身でおこなってもらい、できない方には季節感や身だしなみを大事にして支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | その方のできること、できないことを把握して、調理への参加や片付けに参加してもらっている。 | 職員は入居者と一緒と同じ食事をとり、片付け等の際もさりげなくサポートしている。職員が作る献立は入居者の嗜好や要望による旬の食材等も取り入れ、入居者とスーパーへ買い出しに行く。年2回は法人の管理栄養士の指導も受けている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事・水分摂取量は毎日把握し、記録しており、個々の状態に応じて摂取していただいている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔内に食物残渣がある方などは毎食後歯磨きやうがいをしていただき、全員起床時と就寝前は歯磨きをおこなっている。また、訪問歯科を利用して指導を受けている方もおられる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄パターンや尿量を把握し、パットを使い分けをしたり、随時、定時のトイレ誘導をおこなっている。自立している入居者に関しては見守りを中心にケアしている。 | 入居者ごとに排泄チェック表を作成し、排泄パターンの情報を職員間で把握している。おむつを利用する方もいるが、様子を観察しながら個別に誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄表にて排便を把握し、個々に応じた排便を促す飲食物を提供すると共に適度な運動を取り入れている。また、随時訪問看護師とも相談して薬の調節をしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | なるべく希望に沿うように努めている。また、皮膚疾患のある方は頻回に入浴していただいたり、特殊浴槽を利用してゆっくりと入浴していただけるように支援している。 | 入居者の生活習慣や希望に合わせて、毎日でも入浴できるように支援している。入浴しながらできない方にはタイミングを見計らって声掛けする等、一人ひとりに合わせた対応を行っている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 入居者の体調に合わせて1日の中でも居室で休んでいただく時間をとったり、ソファで休んでいただくなどしている。また就寝は自然に眠れるようにタイミングや状況にみて声がけして休んでもらっている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個々の服薬内容を把握し、処方された薬に関しては服薬方法・効果なども確認している。服薬で症状に変化がみられた場合は主治医・看護師に報告・相談するようにしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 好きなこと、できることを把握し、家事作業を担っていただいたり、ボランティアによる音楽会を聞きにいたり、リビングにて皆で歌を歌ったり、レクリエーションを行うなどしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 体調・気分を配慮しながら散歩や買い物・ドライブに出かけたりしている。訴えられない方や車イスの方の思いなども把握して積極的にアプローチして気分転換を図っていたりしている。 | 近所のスーパーや公園への散歩の他、朝市など入居者の馴染みの場所への外出を積極的に支援している。また、行事としての食事会(外食)や、隣接デイサービスの利用者と共にドライブに出掛けることもある。歩行が困難な方には、車椅子や車両を利用した支援も行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金に対して不安の訴えがある方には、個人の財布を持っていただいております。ご家族とは管理方法についての話あいをしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご家族からの電話の際などにはご本人への取次ぎをし年賀状を出したり、いつでもやり取りができるよう支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節感を感じる装飾や写真、日めくりカレンダーの使用、観葉植物などを配置し環境整備に努めている。フロア内の音・温度なども随時調節して居心地よく過ごせるように努めている。 | ホール等の共用空間には季節感のある装飾や生活感のある調度品を配置し、居心地の良い場所となっている。また、照明や室温、換気等の状態も適切に調整するよう配慮している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | フロアには、テーブル席、ソファー席の他にイスを各場所に設置しており、気分によって過ごしたい場所で過ごせるようにしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居者の方が入居される前から使用されていた馴染みの家具などを持ち込んで頂いている。又、家族の写真やご自分の作品を飾っている。 | 使い慣れた家具や家族写真等、入居者の馴染みの品が持ち込まれるよう、入居の際に家族に働きかけている。職員側でも室内が殺風景にならないように気をつけており、行事で作った作品や写真等を配置して明るい雰囲気づくりに努めている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレには目印をつけたり、居室の入り口には表札をかけている。 | | |